

# 同志社新島記念講堂(礼拝堂)

## 献堂式式辞

松山義則

一九六五(昭和四〇)年、当時の学校法人同志社理事会はこの地田辺町に学校用地取得を決議しました。爾来二三年、その間同志社は迂余曲折の苦渋にみちた長い道程を歩きました。一九八〇年はじめて同志社国際高等学校が設置され、つづいて一九八六年、大学、女子大学、女子大学短期大学部、さらに本年四月、国際中学校の開校をみるに至りました。この田辺校地にはすでに七十数棟にのぼる建造物、広大なる体育施設が完成し、一万三千名に及ぶ学生、生徒がここに集い、その心身を養う活達なる青年の活気あふれるキャンパスとなりました。

田辺校地の大学、女子大学、国際中学校高等学校の互いによりあうところ、この小高い女子大学校地の丘に、共通施設新島記念講堂(礼拝堂)が完成し、立っています。いまここに学校法人同志社は敬虔なる祈りをもって、同志社立学の象徴たるこの壮嚴なる礼拝堂を神の御前にささげます。

はるかなる三千年の昔、ダビデの子、ソロモン王はエルサレムの丘に神殿建設を希求し、レバノン

の香柏、いと杉の良材をえらび運び、金銀銅鉄、そして石をきり、加えてフェニキヤからイスラエルから数万人にのぼるその道の匠を求め、かがやくばかりの神の聖所を建立しました。

信仰に生きた旧約の人びとの古事を静かに省みつ、われわれはこの礼拝堂が今日の日から未来何百年、何千年にわたって詩とさんびと霊の歌をもって神につかえ、主にむかって心からなるよろこびの歌をささげる、若き同志社人の集うところになると信じます。この新島記念講堂（礼拝堂）建設のための資金は、すべて同志社に心をよせる方々の温かいご寄付によるものであります。協力法人をはじめわが国経済界各企業のご厚情、また一万七千人にのぼる全国全世界からの校友、同窓各位の強い母校愛、さらに父母教職員の多くの方々に対し深甚の謝意を表します。

また礼拝堂建設のために田辺町ご当局のご指導ならびに町民各位のご協力、さらに日本私学振興財団をはじめ関係金融機関のご援助に対し心からなる感謝をささげます。この敬虔にして壮麗、高い芸術性の上に最新の技術を駆使してこの建造物を完成されました、世界有数の設計家、建築家のみなさまの御尽力に対し衷心より御礼を申し上げます。神がいまこのところに臨みたもうて、同志社教育の真髄たるキリスト教精神に生きる人々をつくり尊きたもうよう心から祈念して式辞といたします。

△一九八八年九月二〇日献堂式▽（総長）